

活動状況報告（11月）

学生留学コース 4期生 大久保 辰哉

当月は地域のスポーツクラブの一つであるカルトンガーデンテニスクラブへの調査をしてきました。初めに、今月からは子供のスポーツ政策に関してから、地域のスポーツ政策をスポーツ施設の観点から学ぶほうに重きを置いて活動していきたいと思います。というのもさまざまな現地のスポーツ機関とコンタクトを取りましたが、実際に小学生のプログラムに参加したり見学したりするのはできないということだったので、それならば北海道の課題であったスポーツ施設の数の少なさと偏り、そして地域のスポーツ施設の在り方を見つめ直すため、地域の小さなスポーツ施設から巨大スポーツ施設まで数多く存在し、オーストラリアの中でもスポーツが特に盛んなメルボルンで調査することで日本のスポーツ施設の向上につなげるヒントを探していきます。

まずカルトンガーデンテニスクラブに関しては、地域のスポーツクラブであり、自分がテニスを幼いころからしてきたこともあり、地域住民ともテニスを通しての方がコミュニケーションを取りやすいと考え選択しました。当施設はメルボルンの市街地に位置し、小さい子供からお年寄りまで幅広い年代が気軽に集まってテニスができる長年愛されているテニスクラブです。当施設の特徴としては日本の一般的なテニスクラブとは異なり、テニスを習いたい人にコーチがテニスを教えるレッスンだけでなく、地域住民が気軽にテニスに参加できる「Social Tennis(ソーシャルテニス)」というセッションがあることです。ソーシャルテニスは週に4回、レッスンは週に3回行われ、実際に自身も何度かソーシャルテニスに参加し実態を調査してきました。

実際に当施設を訪れ、毎週水曜日に開催される中級者向けのソーシャルテニスと毎週金曜日に開催される上級者向けのソーシャルテニスに参加しました。両セッションとも私と同じくらいの年齢の人達から高齢者の方々まで幅広い年代の住民が参加しており、参加者はほとんどが現地に住んでいる方で、毎週参加している常連の方や、たまに参加する人や、新しい参加者など、国籍も年齢もテニス歴もばらばらな人が集まってテニスを楽しむといった形式でした。特に時間に縛られることもなく来たい時に来て帰りたいときに帰ることができるという自由なスタイルで、セッションの中では全員が新しい人たちともすぐに話しかけ打ち解けるので、英語が堪能ではなかった自身もテニスを通してすぐに輪に入ることができ、リラックスして純粋にテニスを楽しむことができました。運営方法としては、1人のオーガナイザーが参加費を回収したり試合の順番を大まかに決めたりし、全員が節度を守りつつテニスを楽しむ雰囲気を作り出していた。施設には立派な待合室もあり、自分がプレーしていないときはそこから他の人のプレーを見ながらビールを飲んだり食事をしたり話ができるため、地域住民がテニスを通して深く交流できる環境であると感じました。

また当施設はテニスのセッションだけでなく定期的にさまざまなイベントを開催しています。例えば、12月にはクリスマスパーティーが行われ、テニスをしながらBBQやお酒を楽しむことができたりなど、クラブを通して地域の住民とイベントを楽しむこともできます。

このようにオーストラリアの多くのスポーツクラブでは単にスポーツを楽しむ場所ではなく、社交の場としての役割も果たしていると感じました。このようにスポーツを楽しみ、スポーツを通してお年寄りから子供まで人と人が繋がる、そして地域が活性化するようなスポーツクラブが実在していました。学ぶものが沢山ありました。

次月はメルボルン最大のスポーツ施設に関して調査していきます。

